

タイトル 北海道のコンブ養殖の現状 一通信一

海の森づくり推進協会理事 成田省一通信

謹啓

少しずつ寒くなってきた北海道です。

今年は6月25日からコンブ養殖の収穫が始まり、8月上旬ですべてが終了、今は屋内で整形作業です。1枚ずつ規格に合わせて伸ばしたり、叩いたり作業です。今年の北海道の昆布生産高は最盛期の年代の3分の1で、約1万3000トンです。

1万3000トンの昆布を使用して各種の加工品をつくります。沿岸漁業の昆布産業は消えてゆく産業の一つなのではないでしょうか。いま、この打開策案が漁連にも漁協にも存在しないのです。若手30代の漁師は、「俺、一代限り」と言っている現状です。私の住む川汲町の高台に保育園があります。1学年10名ほどです。この子供たちのなかから、漁業を担う者が出てくればと願っています。

海の森づくり推進協会のブログを拝見しています。これからどんな活動になってゆくのでしょう。心配してはいませんが、応援できることがあればお知らせください。海の森づくりは、我々コンブ生産者と加工業者の使命です。私はどのように昆布産業を続けてゆくかと思案しています。

海の森づくり推進協会は、昆布養殖事業で生計を立てている南茅郡の者達にとっては貴重な存在だと思っています。海の森づくり推進協会を起こした、故郷一郎先生が、我々の青年団活動に大きな力を与えてくれました。その成果が昆布養殖であり、ホタテ養殖の生産でした。コロナウイルスの感染拡大の現状から、今後は輸入に頼らない国内生産を重視しなければならないと私は思います。郷一郎先生から、そのことを学んだ者が現在の漁協のリーダーです。コロナ騒動が収まりつつあり、海の森づくり推進協会の活動が本格化することを願っています。

敬具